官刻

孝義録

日向 大隅 薩摩

壹岐 對馬 附録

五十 止

136
50
197

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

官刻孝義録 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 附録 五十

136
50
197

東京圖書館
和書門 傳記類 二三六 七函 五 八架 一九七 一二八號 五〇冊

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

孝義録巻之五十

日向國

孝行者 相良壱岐守支配所 臼杵郡椎葉山大河内村 村役人 椎葉忠右衛門 三十二歳 天明五年褒美

孝行者 内藤能登守領分 臼杵郡高千穂桑野村 庄屋 後藤七郎右衛門 四十九歳 寛延二年褒美

孝行者 同領 臼杵郡北方村早人門 百姓長太郎妻 でん 五十一歳 安永五年褒美

孝行者 同領 臼杵郡北方村二股門 百姓 傳十郎 死後 安永五年褒美

孝行者 同領 臼杵郡小方村曽木門 百姓 太五平 四十三歳 安永五年褒美

孝行者 同領 臼杵郡長井村 作揩 庄三郎 五十六歳 安永五年褒美

明治九年文部省交付

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

孝行者　同領　臼杵郡長井村　百姓　弥太右衛門　六十六歳　安永五年褒美

孝行者　同領　臼杵郡古江村　百姓　源次郎　四十八歳　天明元年褒美

孝行者　同領　臼杵郡高千穂山裏村　百姓　半之丞　廿五歳　天明六年褒美

孝行者　伊東左京亮領分　家来　小人　戸太右衛門　五十七歳　天明八年褒美

○潔白者　同領　家来　足軽　鬼束忠兵衛　三十一歳　天明八年褒美

○孝行者　同領　家来　水夫　分右衛門　廿三歳　寛政二年褒美

奇特者　同領　那珂郡橘之口村　百姓　忠兵衛　七十四歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　家来　足軽格　松山十兵衛　四十五歳　寛政三年褒美

孝行者　同領　那珂郡常久村城ヶ崎町　町人　南村庄右衛門　四十九歳　寛政三年褒美

奇特者　同領　那珂郡小山田村　社役　渡部丹次　三十七歳　寛政三年褒美

孝行者　嶋津淡路守領分　児湯郡新田伊倉村　百姓　小右衛門　二十七歳　寳暦十年褒美

孝行者　同領　那珂郡上那珂平等寺村　百姓　七郎右衛門　四十七歳　安永七年褒美

孝行者　同領　児湯郡新田家ヶ平村　百姓　長左衛門　四十九歳　天明八年褒美

孝行者　秋月山城守領分　臼杵郡才脇村　水主　権七　十三歳　宝暦十一年褒美

孝行者　同領　那珂郡池ノ上村　石工　岩右衛門　三十九歳　宝暦十三年褒美

孝行者　同領　那珂郡池ノ上村　百姓　次兵衛　二十九歳　明和三年褒美

孝行者　同領　同所　次左衛門妻　もり　十八歳　同時褒美

貞節者　同領　那珂郡坂本村　百姓吉右衛門後家　げん　六十四歳　安永四年褒美

孝行者　同領　那珂郡塩屋原村　百姓　新八　三十八歳　安永四年褒美

孝行者　同領　同所　新八弟　甚太郎　三十三歳　同時褒美

孝行者　同領　児湯郡又猪野村　無田百姓勘右衛門後家　うぶ　二十八歳　寛政元年褒美

孝行者　同領　児湯郡美々津　町人　辰五郎　十四歳　寛政二年褒美

忠義者　松平壱岐守領分　家来長谷孫三郎　八郎　歳不知　寛延二年褒美

忠義者　同領　同所　八郎妻　名不知　歳不知　同時褒美

奇特者　同領　諸県郡小林ノ細野村　無田百姓　長助　歳不知　寛延三年褒美

孝行者　同領　諸県郡志布志ノ夏井村　無田百姓　吉右衛門　四十九歳　宝暦六年褒美

孝行者　同領　同所　吉右衛門弟　慶右衛門　四十四歳　同時褒美

孝行者　同領　諸県郡勝岡ノ槻山村　無田百姓　孫四郎　歳不知　安永七年褒美

奇特者　同領　諸県郡小林ノ東方村　無田百姓　吉四郎　六十八歳　天明二年褒美

孝行者　同領家来清津筑後給知　諸県郡高城郷安永村　諏訪神主　秋永飛人　五十四歳　天明三年褒美

孝行者　同領同給　同所　飛人妻　名不知　歳不知　同時褒美

孝行者　同領同給　同所　同子　秋永瀬右衛門　四十六歳　同時褒美

孝行者 同領同給 同所 惣右衛門妻 名不知 三十七歳 同時褒美

孝行者 同領同給 同所 弥人姉 名不知 五十九歳 同時褒美

孝行者 同領同給 諸縣郡都城郷山田村 無田百姓 文蔵 歳不知 天明三年褒美

孝行者 同領同給 諸縣郡都城郷乙房村 無田百姓 銀右衛門 歳不知 天明三年褒美

孝行者 同領同給 同所 銀右衛門聟 三太郎 二十四歳 同時褒美

孝行者 同領 諸縣郡小林郷細野村 無田百姓 助市 四十二歳 天明四年褒美

孝行者 同領 同所 助市妻 名不知 三十歳 同時褒美

孝行者 同領 諸縣郡野尻郷紙屋村 百姓長五右衛門妻 名不知 二十三歳 天明五年褒美

孝行者 同領 諸縣郡都城郷山田村 無田百姓 与右衛門 三十一歳 天明七年褒美

孝行者 同領 同所 与右衛門妻 名不知 二十一歳 同時褒美

孝行者 同領家来篤津筑後給地 諸縣郡都城郷梶原村住居召仕 無役 武田甚助 四十六歳 天明七年褒美

孝行者 同領同給 同所 甚助妻 名不知 四十六歳 同時褒美

孝行者 同領同給 諸縣郡都城郷横市村住居召仕 無役 瀬尾三右衛門 歳不知 天明七年褒美

孝行者 同領同給 諸縣郡都城郷安永村住居召仕 無役 寺﨑傳右衛門 二十七歳 天明七年褒美

孝行者 同領同給 同所 傳右衛門弟 宮里長太郎 二十一歳 同時褒美

孝行者 同領同給 諸縣郡都城郷石寺村 無田百姓 内右衛門 四十四歳 天明七年褒美

孝行者　同領同郡
同村

百姓忠右衛門妻
名不知
三十七歳
同時褒美

孝行者椎葉忠右衛門

臼杵郡椎葉山の大河内村に椎葉忠右衛門といひ
しものあるは村の事をはからひさしまはる者にてありしか父母
に仕へて心をつくし村の内のものともひも憐みやり
なりつゝ朝夕をはとふゆたかならさる身の口をすきて父母
にまめやかに志をつくして後茶をあたへてもてなし妻子にも
孝行の道をまもりきよし常にいひをしへて
しかれは家の内のものもみな同しこゝろにはたらきつゝ
父の歳七十に余りぬれはおのつから穀物を食せさるやうなれは
すへて常に濁酒をのませて食糧となさしめけるに猶またたえすして

遠里なとにて者好たまふ魚鳥又ハ獣乃肉あるハ
野菜乃類をあつものに調して日毎にくハせかつ
おりおりハ焼酎なと求め来りて飲ませ又父母とも
乃常に家乃内にのミゐまさは心むすほれ給ふ事
を歎き田面又ハ近隣まていさなひて心を慰めしむ
村人も感して酒ある時ハかならす此七右衛門を招き
てもてなせしに妻子して伴ひせ参りかへりて
寒れハ己も行て其心を遂させ難きにいひすゝめて
誰其処に出て又ハ客間乃西にまねくゆゑに隣戸隣子
なすことをもてよろこひ給ふ様にしく其席乃うへなり

父母とも老人なれはあつさを凌かせ冬ハ寒さをふせくやうにし
家乃内あたゝかならしめ火をたやさす夜ハ庭の上に衾を
二重にかさね又てさらに我其の傍に寝まても誘
ふ又熱火をやめ我身も退き婦も幸にもたもしく安
眠をなさしめて父乃穀物をくひさる事を歎け其
若病にもかゝりてよりも治療のつくしても叶ふへしなと申し
人にもかたりし故果して八十二にて少し病て婦も彼酒
酒をのますにのミえて母もくに衰へさせ給ふまし
ゆくよう魚類鳥の肉かくのまぬ医師もすくなき
さめ治療をなしかくさらに心掛しともみしきて人

市町まて人をはしらせて酒を求めさせけるに父これ
を志乃厚きをよろこひたゝ一ツのみてやかて身まかりぬ
にいたくなけきて唇をぬらしけるか酒をたちて絶けるに
これを座にありし一族又ハ隣のものも父子共に心乃孝を
しりて涙をなかさぬはなかりけり扨て後乃事ハと
なきを身ハともかくも家乃内のものも日ことに墓に詣
三年の喪後も手向しものゝうちふるまひてかく
焼酎を得る時も父乃そなへとせしめて必墓に
手借しそなへしよし三回忌にも酒をハ酒を
多く汲て里人にたまふ添村といふ所の者とも

そのよの酒くも家に招きあまたの人をして仏名を念
せまほしは後世の為よろしとてさき人々ともに買入行する人
しとたに請にあひて事につくのちかの酒酒をは出して
とらせけるに母も七十をこえて眼うとくなりける
事たにはまかせす食物も和らかなるをのそみ好めハ粟稗を
粥に調してのふへくもへくさ口に叶はさる物をのそき
もくさむきも村の事を営みてハ人の出入も多
く母の心にかなふやうにむかひのと好み別に
何せ来るをそへし其外にも好ましきといふ
事ハ何によらすも仰られなハにかく随ひて

しけれハ人も外に頼しき事とてもなしといへ
ともいかにも艱難しくまめやかにせし衣服なとも年々
あらたに調してつかふるをみな掻にかさね置てくれを
たふふミまへねハ家の内の者もかくうつくしみあひて其
めくみつくしとめしに我身よろしき事もあるまして暑
さむきにも心やすくいとなむも孫との為ゆ
野しもんとハいひてはた母をも思ふす忠孝なるかく親よ
孝なるものをさうし役儀のもしんたある山中の事
なりしはわすれても納めよ下知を加へ貧なる者にも精
なとうけ食糧なともたして救ふよの何事ハ氣遣へさ
ふかきりハいかにも貧たく貧あるへき時ハ人よ
借なとして助なとはかりしかるに貧しき者のなかにもよるかえん
事なとなきまて秋の実りのも度てにとりつけてのちお
さめさせてもらふし天明二三の年ましてき凶作して
山中のものおほく飢よ及ふましかも公より夫食を
かし給ふも年々なとなすかよ納むへき命もなしにそれ
さへ返し納めん事後すさまの手かかりしハ忠孝なるゆへ
入りし銀をもて返し納めハさしもかけてその利銀をとらんと
年毎の年貢のとりたてをもて色々計よハ返させしめさせ
まて遠き道をへだてへいはす男をんなの独もてさそく皆救も

志ある者にいひあへるまゝ其里を支配せる相良壱岐守
よりほうびとして天明五年八月褒美たまはりぬ

潔白者　鬼束忠兵衛

鬼束忠兵衛ハ那珂郡熊野村にすめる給人乃足輕
なりけるがおさなくより父におくれ若きより貧しかり
しかど同じ志なる母に仕ふる事浦めやかなりしに其里長
支配もの又聴しかりき天明八年道にて一乃胴乱を拾
ひ得しがみるに金又ハ小玉銀などありしかハいそぎ
志ある者に渡しあたへまゐらせむとおもひて尋問しかど
落せし者乃名をもしらされハ日毎に尋さまよひける乃

郷里又ハ市町まで携へ行て拾ひたる人やあると
たづねしにつゐに田舎人乃持へしと見えし後
浴町の西村庄右衛門といふ者にこそとはいかに必かの
人ならむといふを聞て其里のなをたゞして彼庄右衛門を
たづね出し渡しけれバ庄右衛門ことに悦ひいそぎしか
ありしに礼物を送りしかど取らず其外庄右衛門厚く礼いひて
次乃日酒肴などを贈りけれど辞して忠兵衛が家居
のかたへしかけるを返してしかば庄右衛門大に感し
まつの此物ハあまたの銀を貧しき人乃うへなれハ
まさにいとひなれハ我身乃用度となしてつかひとも

なるとごとく来りし志乃徒正さんくまし〳〵あり
ゝ時ハふりして貧苦をまぬかれさせんとて是を援
武公憐ミなりし人に此事を米金をほどこし給ひけるハ猶
なりしか産業乃事をもめやすく計ひ遣しけるよ
し領主より告ありの有しかハ元禄十年乃十二月太守様
其孝をよろこひ給ひて称美せらる

孝行者与右衛門

与右衛門ハ信濃の水支にして那珂郡同井津とい
所にあり十二年の歳父にはなれ一人乃母をやしな
ふに孝行なりこまやかに事をやしなひて母を敬ひか

しづく七十余の其母卑賤のうものをちひ見くして母ハ齢九十あま
及へ行歩も叶ハかりしに眼もしろく見えずして老衰
と母たちのくるしひ拙かりけり母子乃中らひ睦く妻
をも定すあるひて又酒をやめたちまち与右衛門ハ外ふ出ん時
なとハ是をかならず母ゝ向ひて其由を申しつゝ出て
いかにもうけるかうへの状ふハきそ帰りまゐりてと申す
やうくしく膳を出し同の事に拘りて是を語り
なく与右衛門ハ母の様子をうかゞひて給物の余力あ
りとそれをこゝろにかけて帰るに其の所をもとめてや
かに語りていひもてなして母をハ別に家にして住せ

あるハ日暮て隠居かたに帰りける時ハいつもよりおそきを
気てかゝる事もやと何となく母の身にそひけるを見てハ
ごくいんをたて人に腹物なとも老母のまゝに足にて試を
りしまさ心よかりければ別に惣してあくる夜彼事
語くもみけりがいつもまた謙の者しも孝心まめく
かな事つる末まゐる折英なる味あれバ母への志に
茂まとしくあつからを何まるし辞して後かうを
偽りぬ文已の文は客を招事ハいかなる思ふくも
まつ母にすゝめ後客乃もとでありとも今乃妻
むかへさるさ折ふしに三人まで娶りしかいつれも母へか

あるましくみな出しやましき母につかふる事諸事
おのが本意なる趣しきたへくとも心あへるさかしより
身乃ふるまひ正しくいさゝかも名利の事を好
ますとて人の孝あることをほめけれバよろこひんで
偽りありものいへハ文礼義をまもりてさ
らに謙のふるまひなく誠よ兎にかく物事を悪
みぬ私乃用の事にもゆく役人の門あちらいりまへ
こゝかしこもなかりしとてかゝる事とも銘
にや母寛政二年五月褒美乃米をあたへ
られき

大隅國

孝行者　松平豊後守領分　大隅郡大根占郷神之川村　無田百姓　半之丞　歳不知　享保十一年褒美

孝行者　同領　同所　半之丞弟　茂之丞　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　大隅郡小根占郷小根占村　野町人　兵右衛門　歳不知　享保十一年褒美

孝行者　同領　大隅郡小根占郷山本村　無田百姓　五右衛門　歳不知　宝暦二年褒美

孝行者　同領　同所　五右衛門弟　龍右衛門　歳不知　同時褒美

奇特者　同領　馭謨郡屋久嶋栗生村　無田百姓　次郎右衛門　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領　肝属郡串良郷柏原村　浦人　文助　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領　始羅郡山田ノ上名村　公田百姓　武左衛門　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領　始羅郡溝邊郷溝邊村　公田百姓　萬右衛門　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領　噌唹郡曽於郡ノ松永村　公田百姓　重左衛門　歳不知　寶暦三年褒美

○孝行者　同領　噌唹郡末吉ノ田尻村　公田百姓　次郎右衛門　歳不知　寶暦三年褒美

○孝行者　同領　同所　次郎右衛門弟　休右衛門　歳不知　同時褒美

○孝行者　同領　噌唹郡末吉ノ中洲村　公田百姓　八左衛門　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領家来頴娃内膳給知　噌唹郡曽於郡郷松永村住居　取次番　後藤宇右衛門　歳不知　宝暦十年褒美

○孝行者　同領同給　同所　宇右衛門妻　名不知　四十歳　同時褒美

孝行者　同領　始羅郡加治木郷木田村　公田百姓　清八　歳不知　寶暦十年褒美

孝行者　同領　同所　清八妻　名不知　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　同所　同子　次郎右衛門　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　同所　同悴　仙助　三十五歳　同時褒美

孝行者　同領　同所　同　六左衛門　二十九歳　同時褒美

孝行者　同領　熊毛郡種子嶋現和村　浦人　弥五郎　歳不知　明和五年褒美

孝行者　同領　同所　弥五郎娘　袈裟　三十三歳　同時褒美

孝行者　同領　肝属郡高山郷宮下村　公田百姓　假次郎　歳不知　明和五年褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197
ガラス使用

忠義者　同領　家来岩崎三左衛門抱　市右衛門　歳不知　明和七年褒美

孝行者　同領　大隅郡佐多ノ伊座敷村　名田百姓　清右衛門　歳不知　明和八年褒美

孝行者　同領　同所　清兵衛倅　三右衛門

忠義者　同領家来清水玄蕃給知　姶羅郡加治木郷段土村住居　右役市来次左衛門抱　清八　歳不知　明和八年褒美

孝行者　同領　姶羅郡蒲生郷久徳村　野町人　磯右衛門　歳不知　安永三年褒美

孝行者　同領　同所　磯右衛門妻　名不知　三十八歳　同時褒美

奇特者　同領　囎唹郡末吉郷田尻村　名田百姓　山助　歳不知　安永八年褒美

孝行者　同領　大隅郡佐多ノ[illegible]村　浦人　長次郎　四十四歳　安永九年褒美

孝行者　同領　囎唹郡吉根郷蕨村　名田百姓　仙次郎　二十四歳　安永九年褒美

孝行者　同領家来清津仙右衛門給知　大隅郡垂水郷田上村住居[illegible]　足軽篠原沢右衛門妻　福亀　三十歳　天明元年褒美

孝行者　同領　大隅郡垂水郷垂水村　名田百姓　与助　四十二歳　天明元年褒美

孝行者　同領　囎唹郡国分[illegible]村　名田百姓　喜之丞　六十二歳　天明元年褒美

孝行者　同領　肝属郡串良ノ上原村　百姓万右衛門後家　名不知　歳不知　天明二年褒美

孝行者　同領　熊毛郡種子島西面村　野町人　傳平　五十八歳　天明二年褒美

孝行者　同領　桑原郡日当山郷嘉例川村　名田百姓　伊之丞　五十四歳　天明二年褒美

孝行者　同領　囎唹郡国分ノ上上川村　野町人　孝之丞　六十八歳　天明二年褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

孝行者　同領　同郡　名同百姓　孝行者妻　名不知　五十一歳　同時褒美

奇特者　同領　囎唹郡国分郷下井村　名田百姓　満五郎　五十九歳　天明三年褒美

孝行者　同領　始羅郡帖佐郷餅田村　名田百姓　源左衛　歳不知　天明五年褒美

孝行者　同領　桑原郡栗野郷米永村　名田百姓　源之丞　六十五歳　天明五年褒美

孝行者　同領　大隅郡垂水郷本城村　名田百姓　八十　二十歳　天明六年褒美

孝行者　同領　大隅郡佐多郷馬籠村　名田百姓　宇右衛門　六十六歳　天明七年褒美

孝行者次郎左衛門
孝行者休右衛門

囎唹郡末吉ノ田尻村にすめる百姓次郎左衛門休右衛門とハ兄弟のものなり母ハ延享年中に病てうせ父のミのこりしまて常に洗濯なとゝん事をも怠らすともに父れをとめつかへよく拵さて好める食味をもとめ夜ハ添寝して物語し孝心の志をあらはし貢延のころ父もうせにしかと兄弟かなけきひまなく朝夕ニ父のいませし時の席をはなれす位牌をかけてまつり酒茶を進め又ハ神仏をもそな

へける事ハ父のいませし時にかはらす三年を
經れとも父の居間をも調度なと外にうつさす
思ひ出ても泪にむせひ孫にも其事を語りて兄の
次郎右衛門なと父のもとにて召つかはれし女を
哀みいたはりて常に兄と父の事をいひ出て涙を
流しける事とも一つにあらさりしを宝暦三年十一
月領主より褒美として兄弟に米あまた
あたへられけり

孝行者八右衛門

八右衛門ハ能登郡米吉ハ中島村の百姓なり母ハ世を
早うし父のミ存せりけるか家貧しく暮しハよろしからす
むすめ婦の世話して奉公なとして力を尽して仕へ
けるか延享の秋父も病にかゝりけれは甚哀ひ悲
しく三日か間食をもたへて後日ことに父の墓
にまうてぬれハひきしよろこひなけきあへる事八年の
間かはる事なし毎月の忌日にハ菩提寺なる龍澤
寺へ香花の料をもち行て追福をいとなミけり
宝暦三年十一月領主より褒美として銀をあた
へとらせける

孝行者後藤右衛門妻

領主乃城下士頴娃内膳よ仕へし後菱刈右衛門なる
者乃妻と共に帰り頴娃郷松永村よすミて夫婦と
もに力をあハせて父母乃孝養怠りなし父ハ正
左衛門といひし先乃とし九十余歳よてうせ母も九十
にあまりたるを昼夜となく側よありて介抱
し殊さら夫婦外なる時ハ母をなくさめ母乃
ほしかる菓子を好めハ郷乃果物をも買求めてすゝ
めしの其益乃費なるをいとひて母好めるをさゝ
いはずとも隣よりもらひえしこゝろもあらんをも
して心よくなくさせさせ母乃年寄しく老し

まそ寝さるをれまくる事もしかもくるしくの謡ひ
物をそうよへても心を慰め時よよりてハ乳をのました
しなとハふよ妻ハ四十よ餘りまじわりて一度もまと
う染る事なきに己の乳房をふくませて其心よ
まかせしハ或ハ吸或ハ戯るる乳房も爛まりしる事
あまりしらいさいかもいとへるちなくかくる孝養なる
まてハ惟命乃そのまゝおたさとをたちまち丈婦を
且郡そらふ減地とせしとなん宝暦十年正月郷
主よりも褒美しる丈婦乃そのよ米そくまく
をたまへる

薩摩國

○孝行者　松平豊後守領分　河邊郡加世田郷大浦村　壬田百姓　次郎兵衛　歳不知　元禄七年褒美

○孝行者　同領　同所　次郎兵衛弟　志摩右衛門　歳不知　同時褒美

○孝行者　同領　鹿兒嶋城下東比須町　町人　池田庄右衛門　歳不知　宝永四年褒美

○孝行者　同領　日置郡郡山郷小山田村　壬田百姓　喜右衛門　歳不知　宝永六年褒美

忠義者　同領　家来白濱八郎右衛門抱　貞右衛門　歳不知　享保十二年褒美

忠義者　同領　同断　貞右衛門妻　名不知　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　家来市来李右衛門抱　孝右衛門　歳不知　享保十六年褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

孝行者　同領　同郡伊地知彦左衛門抱　孝左衛門子　吉左衛門　歳不知　同時　褒美

孝行者　同領　家来阪本礼樹右衛門抱　新兵衛　歳不知　元文二年　褒美

奇特者　同領　日置郡郡山郷東俣村　公田百姓　百左衛門　歳不知　元文二年　褒美

忠義者　同領　家来竹内英左衛門抱　伊之助　歳不知　寛保二年　褒美

孝行者　同領　鹿児島城下南林寺門前　町人　太左衛門　歳不知　寛保三年　褒美

奇特者　同領　家来平城市左衛門抱　幸兵衛　歳不知　延享元年　褒美

奇特者　同領　日置郡市来郷伊作田村　浦人　又兵衛　歳不知　延享三年　褒美

忠義者　同領　家来井上清左衛門召仕　下男　三平　歳不知　寛延元年　褒美

孝行者　同領　日置郡串木野郷串木野村　公田百姓　助右衛門　歳不知　寛延二年　褒美

農業出精　同領　日置郡串木野郷串木野村　公田百姓　繁右衛門　歳不知　寛延二年　褒美

孝行者　同領　日置郡市来郷長里村　野町人　徳左衛門　歳不知　寛延二年　褒美

孝行者　同領　揖宿郡指宿郷拾弐町村　浦人　太次右衛門　歳不知　寛延三年　褒美

忠義者　同領　家来中馬四郎右衛門抱　四郎助　歳不知　寶暦二年　褒美

忠義者　同領　家来渋谷嘉納右衛門召仕　若党　小林十兵衛　歳不知　寶暦二年　褒美

忠義者　同領　同断　十兵衛弟　小林十助　歳不知　同時　褒美

孝行者　同領　鹿児島郡吉田郷佐多之浦村　百姓八郎右衛門娘　亀鶴　歳不知　宝暦三年　褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

奇特者　同領日置郡郡山郷東俣村　名田百姓　彦右衛門　歳不知　寶暦三年褒美

奇特者　同領同所　彦右衛門弟　三右衛門　三十一歳　同時褒美

奇特者　同領同所　同　助右衛門　歳不知　同時褒美

忠義者　同領家来平野休右衛門召仕　下男　新兵衛　歳不知　寶暦三年褒美

孝行者　同領高城郡水引郷草道村　百姓文右衛門妻　名不知　四十四歳　寶暦三年褒美

奇特者　同領日置郡郡山郷川田村　名田百姓　長助　歳不知　寶暦七年褒美

忠義者　同領家来芦谷市郎右衛門召仕　下男　佐藤甚右衛門　歳不知　寶暦十年褒美

孝行者　同領日置郡郡山郷東俣村　百姓　幸兵衛　五十四歳　寶暦十一年褒美

忠義者　同領家来美代六郎兵衛抱　傳助　歳不知　寶暦十三年褒美

忠義者　同領家来伊地知市左衛門抱　甚平　歳不知　明和二年褒美

忠義者　同領家来立石喜三兵衛召仕　下女　あん　歳不知　明和三年褒美

奇特者　同領谿山郡谷山郷福本村　野町人　仲兵衛　歳不知　明和六年褒美

孝行者　同領家来木場巳郎左衛門抱　善丞　歳不知　明和八年褒美

忠義者　同領家来野添千兵衛抱　長七　歳不知　安永七年褒美

貞節者　同領鹿児島城下堀江町　町人東吉郎左衛門後家　千代　六十八歳　安永七年褒美

孝行者　同領揖宿郡指宿郷拾二町村　浦人五右衛門悴　佐右衛門　歳不知　安永八年褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

孝行者　同領同所　佐右衛門妻　名不知　四十六歳　同時褒美

孝行者　同領同所　玄右衛門次男　善蔵　五十歳　同時褒美

孝行者　同領同所　同三男　玄右衛門　四十七歳　同時褒美

孝行者　同領同所　同娘　以人　同時褒美

忠義者　同領　家来眈足助玄清抱　平八　歳不知　安永八年褒美

孝行者　同領　家来小松帯刀召仕　普請方吉信八十右衛門後家　孝　四十八歳　安永九年褒美

孝行者　同領　薩摩郡隈之城郷東手村　野町人　傳吉　三十三歳　安永九年褒美

孝行者　同領　鹿児島城下堀江町　町人　助八　歳不知　天明元年褒美

孝行者　同領同所　助八妻　名不知　三十一歳　同時褒美

孝行者　同領　鹿児島城下西田町　町人　山崎金右衛門　歳不知　天明元年褒美

孝行者　同領　日置郡山郷小山田村　衣田百姓　太郎八　十三歳　天明元年褒美

孝行者　同領同所　太郎八妹　孝　十一歳　同時褒美

孝行者　同領　高城郡水引郷宮内村　百姓弥右衛門後家　名不知　五十一歳　天明二年褒美

孝行者　同領　鹿児島城下呉服町　町人市郎右衛門妻　くま　四十八歳　天明二年褒美

孝行者　同領同所　同二男　七郎次　十八歳　同時誉

奇特者　同領　出水郡出水郷知識村　衣田百姓　弥右衛門　三十八歳　天明二年褒美

孝義録巻五十　十二

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

孝行者　同領　谿山郡谷山郷和田村　浦人　七左衛門　五十五歳　天明二年褒美

孝行者　同領　日置郡串木野郷羽島村　名田百姓権左衛門悴　喜右衛門　四十七歳　天明二年褒美

孝行者　同領　薩摩郡樋脇郷中村　名田百姓　権右衛門　六十歳　天明二年褒美

孝行者　同領　同所　権右衛門悴　善八　三十六歳　同時褒美

孝行者　同領　同所　同　喜三郎　三十二歳　同時褒美

孝行者　同領　同所　同　清六　三十歳　同時褒美

孝行者　同領　同所　同　林蔵　十五歳　同時褒美

奇特者　同領　高城郡水引郷五代村　名田百姓　孝左衛門　三十八歳　天明三年褒美

孝行者　同領　日置郡郡山郷東俣村　名田百姓　源十　四十四歳　天明三年褒美

孝行者　同領　同所　源十弟　彦左衛門　二十三歳　同時褒美

孝行者　同領　鹿児嶋城下濱町　町人　原田貞右衛門　四十四歳　天明三年褒美

孝行者　同領　同所　貞右衛門弟　原田市左衛門　歳不知　同時褒美

忠義者　同領　家来内田源助召仕　下男　三右衛門　四十九歳　天明三年褒美

忠義者　同領　元家来町田喜左衛門抱　仲右衛門　歳不知　天明三年褒美

忠義者　同領　同断　仲右衛門妻　せん　五十歳　同時褒美

忠義者　同領　同断　同妹　むめ　同時褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

孝行者　同領　家来池水源右衛門抱　助左衛門　五十九歳　天明四年褒美

奇特者　同領　伊佐郡山野郷山野村　元田百姓　伊左衛門　五十八歳　天明四年褒美

孝行者　同領　伊佐郡山野郷白男川村　元田百姓　弥左衛門　歳不知　天明五年褒美

孝行者　同領　伊佐郡山崎村　百姓丞市左衛門妻　名不知　五十一歳　天明五年褒美

孝行者　同領　伊佐郡山崎郷久富木村　百姓七左衛門妻　名不知　三十七歳　天明五年褒美

忠義者　同領　家来戸田七郎太召仕　若黨　渡辺八五郎　四十八歳　天明六年褒美

奇特者　同領　鹿児島城下船津町　町人　増田孝蔵　四十二歳　天明六年褒美

孝行者　同領　家来嶌津若狭召仕　足軽　谷龍助　五十五歳　天明七年褒美

孝行者　同領　同断　龍助伜　谷辰内　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　鹿児島城下和泉屋町　町人　立山三左衛門　四十八歳　天明八年褒美

孝行者　同領　薩摩郡高江郷久見崎村　水手惣左衛門伜　喜太郎　二十五歳　寛政元年褒美

孝行者　同領　同所　同　伊勢郎　十九歳　同時褒美

孝行者　同領　同所　同娘　名不知　十四歳　同時褒美

孝行者　同領　鹿児島城下和泉屋町　町人　勘八　二十七歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　家来渋谷次郎左衛門召仕　若黨　瀬戸口政次郎　二十一歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　同断　政次郎弟　瀬戸口弥助　十八歳　同時褒美

孝行者　同領　同断　同妹　きよ　十五歳　同時　誉

孝行者　同領　同断　同　かめ　八歳　同時　誉

孝行者　同領　家来小山田知教院抱　喜太郎　二十歳　寛政二年　褒美

忠義者　同領　家来小笠六左衛門抱　次玄濤　二十五歳　寛政二年　褒美

奇特者　同領　元家来沼津因幡跡召仕　永田六之進　三十九歳　寛政三年　褒美

忠義者　同領　家来沼郷仁右衛門召仕　下男　源右衛門　二十六歳　寛政三年　褒美

孝行者次郎玄濤

孝行者志摩右衛門

次郎玄濤志摩右衛門兄弟ハ河内郡加世田郷大浦
村乃百姓なりし父を志摩といふ志摩か妻をさと云
人の子あまたありて長子を市玄濤といひしか志摩か妻
年老て田畠も皆市玄濤へ譲りしに市玄濤大浦
村乃名頭役を勤め天和乃ころしめ父ハ先立ちて
死し男子もなかりしかハ家をつかんとして弟乃志摩右衛門して
跡をつかせんと次郎玄濤のいひきかせしを志摩右衛門
も兄次郎玄濤をさしおきて跡をつく事道にあらすと

といひ次郎左衛門ハ志摩右衛門か母はらからにて兄弟を
かゝはらす隠居の身となりて一決なりかたきハ此上も父の
むすめを娶りて志摩右衛門に跡をゆつらせんとなしけれハ父にハ
事に名跡を次郎左衛門に譲りて田畠の事は
兄弟半分つゝ分ちていひなからなかくハかれか為に自
に随ひ居しに元禄の初つかたハ父病てうせ母年老たる
物さひしからんと兄弟かはるかはる側にはへりて
なくさめハ兄弟ともに左右にありて母の身を暖め
又常に物かたりなとを好みけれハ兼てきゝたる昔
の物語しつゝ慰めまいらせ母やゝ老衰へられし

兄弟むつましく睦ひて親族又ハ他人の前にて
いさかひ兄弟の者とはゆめさらみへす二心なくさめ代
みくハ家にある薬をとし打まもりいとおもしろから
を見せいはくふかく身をも重めなかりて背負帰り
又姉妹をもあつくいたはりて母の時とてあるかことく
事あまたは子と孫として姉妹を進みて而にやと
まて兄弟ともに母の命をそむく事なくいとけ
なき者の父母を慕ふるやうなりしかハ母も又幼子
をみるかことくに慈愛しけるとなん元禄七年十一
月領主の加世田の別館に滞留ありし時兄弟の者

をとしはしめ高田そこくなとかゝり年貢丁役

をもゆるし給りけるとそ

孝行者池田庄右衛門

池田庄右衛門ハ麑嶋の城下恵比須町の人なり父うせにし後家貧しくなりしかハ作苑又ハ髪結ふわざをなして母を養へり母中風をやみて手足も心に任せす常に抱きかゝへて起居をたすけ朝夕の食も箸とりてくゝませ好める物ハ遠きハ處をも求め進めなと事せり母の側をはなれすくの物語して慰めけれハ我身ハ

今き衣をハ身にゆくともきせ冬ハ母のあたりに蒲団衾の類をしき寝て身をもてあつかふ母の肌をあたゝめ夏の夜ハ夜すから団扇にて蚊をはらひ其身ハ貧しき中にても孝養をつくしけれハ人も感しあひて衣服米銭なとあたふる事有けれハ衣服ハ母にきせ己ハ母のふるき衣をきて年頃過しけるとそ妻もありしかと隣の人のあしくいひしに母一人を養ふにさまたけあるへき心の洩ありぬれハ妻を持くさし身にあまりて持たりけり其後母も天年をたもちてみまかりぬ寛政四年十月終りに及ひ恵比須町の町圓浦一所をたま

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

同しくまくをあたへられ賞せられけるすへて鹿児嶋の
城下にかくれなき孝子ニ庄右衛門と稱し又町家のか
たはらの橋を名付て孝行橋とよひける庄右衛門
享保九年四月うせにし後何者かたてけん孝行
橋のもとに一首の歌をかきて出しけり

義をこそはかけて渡せめ人の子の道はしりしな名は橋にて

孝行者喜左衛門

喜左衛門は日置郡郡山郷小山田村のくらゐもちぬ
百姓なりし父は寶永の頃うしなひけるにその常は
臥し所の席を母の居所に定め並て己はその下に座
しいさゝかも不敬の体をなさす事なしはやく妻をも
娶りしか母を養ふ事なかりしかはそのまゝさりて出し
やりて後妻をむかへよといふものあまたあれは果報の身
にしあれは孝心ある妻をえて母へつかふる事心に叶ひせ
かましいふとも己一人にして四の体をつゝしみとて昼
夜母の側にありて其養をとゝのへて文なり小山田村
に荒尾浦ありて村の民三四人ほとつゝ日夜に番
かけし事ありしに喜左衛門の番にあたりける日は同し
く番にあたる者をたのみ一刻つゝの暇をこひて
母をかへりみる又は人の子なれは身まかりし後孫よれとも

母乃福ありてわづらひしときも人にさらに席を
さらで酒なともちひし父悔り母と共に身のひまなう
宝永六年五月領主より褒美して母ある間も
ふたりくれと恵らせたり

孝行者

壹岐國

松浦壹岐守領分
壹岐郡箱崎村

百姓

武右衛門
五十歳

寛政元年
褒美

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

對馬國

奇特者	宗對馬守領分 府中城下宮司小路	町人左玄濤下男	検玄濤 歳不知	元禄十三年 褒美
奇特者	同領 同所	検玄濤妻	名不知 歳不知	同時 褒美
孝行者	同領 府中城下昌元町	町人	與玄濤 五十歳	享保五年 褒美
孝行者	同領 府中城下国分町	町人	弥一右衛門 四十一歳	享保五年 褒美
孝行者	同領 府中城下裏町	町人	長右衛門 四十五歳	享保五年 褒美
貞節者	同領 府中城下昌元町	町人検左衛門後家	名不知 歳不知	享保七年 褒美
忠義者	同領 府中城下舩𦾔町	町人仁玄濤母	名不知 七十一歳	享保八年 褒美

忠義者　同領　府中城下田渕町　町人増右衛門下男　亀吉　二十二歳　享保八年　褒美

奇特者　同領　府中城下十王町　町人　三郎右衛門　五十八歳　享保八年　褒美

孝行者　同領　府中城下大橋下町　町人　久右衛門　五十九歳　享保十二年　褒美

孝行者　同領　同所　久右衛門妹　名不知　歳不知　同時　褒美

忠義者　同領　府中城下宮谷町　町人　市右衛門　三十五歳　享保十三年　褒美

孝行者　同領　下縣郡豆酘郷豆酘村　百姓　源助　歳不知　享保十六年　褒美

孝行者　同領　上縣郡三根郷吉田村　百姓　十右衛門　歳不知　享保十七年　褒美

孝行者　同領　家来　足軽　勘右衛門　歳不知　宝暦元年　褒美

奇特者　同領　府中城下濱町　町人　兵助　歳不知　寶暦八年　褒美

孝行者　同領　府中城下十王町　町人伊兵衛次男　源七　十二歳　安永六年　褒美

孝行者　同領　上縣郡伊奈郷伊奈村　百姓源右衛門悴　利吉　三十三歳　天明七年　褒美

奇特者　同領　下縣郡仁位郷銘村　百姓　佐助　五十四歳　天明八年　褒美

奇特者　同領　下縣郡伊奈郷伊奈村　百姓　仙右衛門　五十八歳　寛政元年　褒美

孝行者　同領　府中城下昌元町　町人与吉叔父　甚吉　四十四歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　下縣郡豆酘郷豆酘村　百姓吉兵衛妻　里ん　三十四歳　寛政三年　褒美

孝義録巻之五十

附録

常陸国

親之歓討　水戸殿領分 茨城郡大橋村　百姓　茂助 三十六歳　明和五年 褒美

上野國

親之歓討　松平大和守領分 勢多郡二之宮村　百姓　辰之助 二十三歳　寶暦十年 褒美

下野國

親之歓討　大田原飛騨守領分 那須郡矢坪村　百姓　与右衛門 三十三歳　寛政二年 褒美

陸奥国

親之敵討　南部慶次郎領分 岩手郡雫石村　百姓　上野長之助　二十五歳　元文五年褒美

出雲国

○親之敵討　松平出羽守領分 仁多郡上阿井村　百姓　五兵衛　歳不知　元禄六年褒美

○親之敵討　同領 同所　同　三助　歳不知　同時褒美

○親之敵討　同領 同所　五兵衛弟　七兵衛　歳不知　同時褒美

親之敵討五兵衛

親之敵討三助

親之敵討七兵衛

五兵衛三助七兵衛ハ仁多郡上阿井村の百姓長兵衛か子なり兄弟ともに人となり孝心ふかく世に特なるものなりあるとき父の長兵衛ハ同郷の七郎兵衛と争論の事ありしを村の長なとおしよりてなためやはらけたりし其後長兵衛と七郎兵衛とも二人ともに山に入木をきりしに日暮まて七郎兵衛ハ帰りしか長兵衛ハかへらす其子五兵衛あやしみて人をともなひあまねく山をさかし求れとつゆみえ

もとめ侍とめあへる孫なりしに谷底に屍ありしう
走のより首を切りけるく殺せるさまに見えしかは又
玄清か心よ是悩ましく七郎玄清か殺せるにさるなりと思
ひ讐を報ぜんとせしかども・さたかに證とすべき事も
なく打すぎ伯父浪士なるも其志かたくともにまかせて
色もりしかば七郎玄清ハ悩まれなく父の讐なりと知りひ
いかに報ぜんの心切なりといへども家貧しくて人
の業をかりて居ければその物ひめを償ひして讐を
報ひるべく貧苦にせまりてかこち侍しなく人よい
たちさんの口かしとて業かりなる者れけり小事なし

家ありぬ物ひめを大切に償ひをなす事にまかせて
七郎玄清と共にあるそひを於てし汝ハもとより
我父の讐よ候へきなれしといふに里人村長も侍都
て中なりきちに物くにあつかひしに七郎玄清を
和談をもちのこ玄清ハこれもいはさなしか父の
讐といふは事悩ましく七郎玄清か口よりいひもさる
うらは讐をとむらひかてしと物ひさけるんよ
新たに我をめよ酒をくみかはして我ハ玄清か
父の讐なり今玄清か恩を以て我命を賜ふといひ
て和談まへしといふさ七郎玄清遥をすゝめく

志かくしつゝ又兵衛も二人の者をまねきいひ
けるに和談せしハ父の讎の実否をきかんか為なり
七郎兵衛かはからひてねんころしく我父の讎なりと
そのうへは異儀に及ぶまて志ありともいふまし
かつまたは米の所望にまかせいとて山林又ハ牛馬なく
も残りなく賣てまつしく物いひを僕ひ兄弟
ともに心をあはせてうち果さん時をうかゝひしに
折ふし七郎兵衛ひとり山に行をミ助見つけゝれ
うしろより父の讎のかたきとなのりかけ木切を
以て打殺しけり兄弟里人ともに領主に訴へて

きまめ申ひしに里人のいふところは二人の者
む孫小ふる事なけれハ父兵衛かうちまけし
より二十年ちかく成ぬるを兄弟ともに志を変
せすして實否をたゝし讐をむくひし事志
感しいはれあることゝて領主よりあはれみ褒
美せしとなん

附録

136
50
197
136
50
197

享和元年辛酉八月

弘所

江戸日本橋通一町目
須原屋茂兵衛

同 日本橋西川岸町
長谷川庄左衛門

国立国会図書館　タイトル『孝義録』　請求記号 136-197
ガラス使用

136
50
197

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用